



# 自治の精神高らかに

秋田大学教育文化学部附属中学校  
令和2年9月8日 発行 No. 5 文責 櫻庭

## 「豊かな個性」が躍動した『芸術祭』

「コロナ禍だからこそできる学校行事にしたい。」という思いを、生徒会執行部の3年生と共有したのが臨時休校が明けた5月でした。その後、安全と充実を両立させるために、生徒と職員が、英知を集めて計画を立て、心を一つにして準備等に取り組み、9月2日に生徒会主体の開会式、3日に第1回の附中芸術祭を無事に終えることができました。感染防止策にご理解とご協力をいただくとともに、当日もオンラインを通して参観して下さった、250名を越える保護者の皆さん、本当にありがとうございました。

芸術祭を通して、心が温かくなった場面をいくつか紹介します。

一つ目は、感染対策をとりながら行った練習です。マスクをすると息苦しく、フェースシールドをすると音が聞こえづらくなります。しかし、生徒は、現状を受け入れ、今できる精一杯の努力を重ねていました。コンクールですから優劣はつきましたが、どのクラスも自分たちの個性を磨き、心に響く歌声を披露したという意味で、**全てのクラスが最優秀賞に値する**と思います。培った絆を、今後さらに深めていきましょう。

二つ目は、2年生の執行部員が、開会式で3年生の執行部員に感謝の思いを伝えた場面です。執行部員はいつも遅くまで生徒会室に集い、コロナ禍でもできる附中生の個性やエネルギーを発揮できる開会式を企画していました。花束を手に実行委員長の生徒が感涙にむせんでいました。**苦しい仕事をやりとげた人しか流せない涙**だと思いました。執行部員の皆さん、新たな歴史の一步を踏み出してくれてありがとう。

三つ目は、各種コンクールが中止となり、この舞台が、最初で最後のステージとなった合唱部員と吹奏楽部員の達成感に満ちたさわやかな表情です。両部共にコンクールの中止が決まってからも、気持ちを切らすことなく真剣に練習に取り組んでいました。両部共に部員全員の熱い思いが伝わってくるステージでした。コンクールの「金賞」はとれませんでした。が、**全校生徒や先生方の審査結果は、「金賞」だった**と思います。



▲マスク&フェースシールドで練習する生徒



▲花束を手に達成感に満ちた3年執行部員



▲最初で最後のステージを楽しむ合唱部員



▲この1年間の努力の成果を出し切った吹奏楽部員

## 教育実習を終えて コロナ禍だからできたことも…



▲オンラインで授業を行う実習生



▲協力して数学の授業を行う実習生

8月28日～9月7日まで、秋田大学の2年生35名が、本校で教育実習を行いました。感染症対策のため、2週間の期間を1週間に短縮し、対面での授業は行わないという条件のもとでの実習でした。

実習も「コロナ禍だからこそできる教育実習にしたい。」という思いで実施計画を立てました。今年度の特色の一つ目は、実習授業をオンラインで行ったことです。数年後の学校現場を見据えた取組でしたが、SNSに慣れ親しんで育ってきた学生の順応力の高さに驚きました。彼らならICT教育の担い手となり、秋田の教育を支えていくことでしょう。

特色の二つ目は、直接関わることが制限されていたため、二行日記のやり取りを通して生徒とのコミュニケーションを深めたことです。SNSでは決して感じることはできない何かを、実感してくれたのではないかと期待しています。

特色の三つ目は、学級通信づくりです。保護者を意識した業務も貴重な体験になるのではないかと考えたのです。配属されたクラスの通信として発行いたします。初々しい通信を広く、温かい心で一読し、楽しんでいただければ幸いです。

## 定期テストIを終えて ～『学ぶということ』について

夏休み明けに、第1回の定期テストが行い、先週、生徒に成績カードを配付しました。

学級担任の先生方から、努力したことが結果に結び付かずに悩んでいる生徒や保護者の話を聞きました。その時、私に「学ぶということ」について深く考える機会を与えてくれた二人の教え子(本校卒業生)のことを思い出しました。

K・T君とM・Sさんは、同期でいつもどちらかが、学年成績1位をとるという高い学力を有する生徒でした。K・T君は東京大学に進学した生徒です。彼の言葉は、私が「君も塾に通っているの？」と尋ねたときのものです。彼の言葉を聞き「学ぶということ」は「分からないということを知る」ということなのだ学びました。そのとき以来、私は教科書を精読し、疑問を見つけ、解決してから授業を行うようになりました。

M・Sさんの言葉は、早稲田大学進学後に聞いたものです。東京大学進学を目指していたM・Sさんは、高校時代にK・T君と自分との違いを痛感したそうです。

学び方には、非効率的だが見えにくい学力が高まる方法と、効率的に見えやすい学力が身に付く方法があるのではないかと思います。ぜひ、試行錯誤しながら、自分の特性に適した学び方を探してほしいと思います。努力したことは結果に結び付かないことがあったとしても、必ず自分の底力の向上につながっているのです。努力は決して自分を裏切りません。

### 「K・T君の言葉」(中学3年の時)

僕は塾に行く余裕がないんです。なぜかという、次の日に学習する予定の教科書を読むと、次から次へと疑問がわいてきてその疑問を調べていると、あっという間に時間が過ぎてしまうからです。

### 「M・Sさんの言葉」(大学1年の時)

私は、学校や塾の先生方の教えや助言を聞いて、与えてもらったことについては、一生懸命努力してきました。しかしK・T君は、中学校の時から自分でやるべきことを考え、自分のやり方で努力していました。その違いが、今の私とK・T君の力の差になっているのだと思います。

**【お詫び】** 芸術祭の際、放送や内容構成等で不適切な点があり、一部の生徒や保護者に不快な思いをさせてしまいました。感染防止を最優先し、担当する教員や生徒がリハーサルや最終確認等を行う時間を学校として十分確保できなかったことによるものです。当該の生徒や保護者に対しまして、心よりお詫び申し上げます。